

研究発表もうしこみフォーム

氏名：山田洋平

氏名のローマ字表記：YAMADA Yohei

所属：東京外国語大学

専門分野：モンゴル語学

発表のタイトル：従来のモンゴル語教材等における「複数形」の扱い

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表では、主に本邦で出版されたモンゴル語教科書を中心として、その文法説明の中で「複数形」がどのように扱われているかを議論する。発表者は Ямада (2023) において、日本でこれまでに出版されたモンゴル語教科書 10 種について扱われる文法項目について分析を行った。これによると、とくに「複数形」はその扱われ方がまちまちであり、全く扱わない教科書も存在することについて指摘した。本発表は文法書にも対象を広げ、モンゴル語の名詞が複数性を表す際に取りうる形式の扱われ方について説明と例示の内容から検討していくものである。また、いくつかの既存の公開コーパスを用いてモンゴル語の複数形の使用実態についても調査を行ない、山田 (2024) で提示した学習語彙の観点からも各種教科書類で例として挙げられる語の妥当性について考察する。

モンゴル語の新聞コーパスで -UUd の付された 50 種類の見出し語の出現数を出して合計し、総トークン数で割った数値は 3.2% となった。試みに日本語の新聞コーパスで複数を表す「たち」「ら」の付された語 (短単位) の出現する頻度を算出してみると 1.8% ほどであった。なおモンゴル語の xümüüs 「人々」という語の出現頻度は -UUd に関して算出した数値よりも高い。これは日本語の「人々」「方々」という語の出現頻度より圧倒的に高い。

モンゴル語における名詞の数は、義務的な屈折カテゴリーでないことや、その形態が十分に解明されていないことなどを主たる理由として、従来の教科書では扱いが不十分であったものと思われる。具体的には、複数を標示する際にどの語がどの形式を取るのかが、一部の例示のみに留まり、その全体像が示されていない。他方、モンゴル語における複数形の出現頻度は、上述のコーパス調査から明らかのように日本語に比して高い。

Ямада Ёохэй. 2023. “Японд хэвлэгдсэн анхан шатны монгол хэлний сурах бичгийн тухай -

Сэдэв сонгон заах талаар –” The 12th of International Congress of Mongolists. Presentation.

山田洋平. 2024. 「初学者向けモンゴル語学習語彙」日本モンゴル学会春季大会. 口頭発表.